

AUTOMATICA 2022 ファイナルレポート

国際オートメーション・メカトロニクス専門見本市
2022年6月21日～24日

2022年6月24日

automatica 2022 業界の原動力として再始動

Summary

- 35カ国から574社が出展
- 75カ国から約28,000人が来場
- 来場者の質の高さに、出展者が高評価
- 次回 automatica は、2023年6月27日から30日に開催決定—LASER World of PHOTONICS と同時開催



Facts & Data

会期	2022年6月21日(火)～24日(金) 9時～18時(最終日16時)
会場	メッセ・ミュンヘン
主催	メッセ・ミュンヘン (Messe München GmbH)
後援	ドイツ機械工業連盟 (VDMA) ロボット・オートメーション工業会
規模	66,000 m ² (2018年度)
出展企業数	35カ国から574社 (2018年度29カ国から890社)
来場者数	75カ国から約28,000人 (2018年度89カ国から45,584人)
主な出展品	組立・操作技術、ロボット、マシンビジョン、ポジショニングシステム、駆動技術、センサー技術、制御システム技術、安全技術、サプライ技術、ソフトウェア、サービス、研究・技術開発等
併催プログラム	munch_i high-tech summit、i_space forum、Robothon®、automatica Forum、The Odense Investor Summit、The International Symposium on Robotics (ISR) ほか
同時開催メッセ	analytica 2022、ceramitec 2022
出展日本企業 (現法出展など含む)	(株)アイエイアイ、オムロン(株)、川崎重工業(株)、(株)クリエイティブテクノロジー、(株)キーエンス、住友重機械工業(株)、セイコーエプソン(株)、(株)デンソー、THK(株)、東芝機械(株)、ナブテスコ(株)、日本電産シンポ(株)、日本トムソン(株)、パナソニックコネクツ(株)、平田機工(株)、ファナック(株)、(株)不二越、(株)安川電機、ヤマハ発動機(株)、LiLz(株) ほか
専用URL	www.automatica-munich.com (英語、ドイツ語)

産業における自動化とロボット工学の将来の役割は何か？
どういった開発とテクノロジーが明日の仕事を形作るのか？
そして、AI はどのように重要となっていくのか？

2022年6月21日から24日までミュンヘンで開催された automatica は、これらの質問に対する答えを提示し、さらに、数多くのトレンドとイノベーションを提供した。

今回の automatica では、35カ国から574社が出展してインテリジェント・オートメーションとロボット工学に関する技術や製品を紹介し、75カ国から28,000人を超える来場者を迎えた。ドイツに次いで出展者の多かった国は、順に、イタリア、スイス、オーストリア、デンマーク、オランダ、カナダ、フランス、ポーランド、イギリス、アメリカであった。また、ドイツ国外からの来場者は全体の約38%であり、特に東ヨーロッパからの来場者が多かった。

主催者メッセ・ミュンヘンのCEOラインハルト・ファイファーは、「automaticaでは自動化とロボット工学の未来を体験することができた。この業界のイノベーションは驚くほど高いレベルにあり、多くの出展者が新製品や新技術の発表の場として automatica を選んでくれたことを非常に嬉しく思う。今回の結果から、来年の automatica の成功が確信できた」と前向きに締めくくった。



automatica は業界の原動力

HAHN Automation 社の CEO で VDMA Robotics+Automation Association 会長の Frank Konrad 氏は、「automatica は、長年業界の最重要見本市として、業界のトレンドやイノベーションの紹介し、業界の発展に欠かせないビジネスプラットフォームとしての役割を果たしてきた。今回も対面でのコンタクトやオープンなコミュニケーションを求める質の高い潜在顧客や取引先など多くの顧客が会場を訪れた」と語った。

また、KUKA 社の Wilfried Eberhardt 氏も、「自動化、ロボット工学、デジタル化は成長の原動力だ。automatica は昨今の困難な時代における業界の重要な推進力であり、今回も会期中に多くの価値のある議論を交わすことができた」と話した。

robominds 社 CEO の Tobias Rietzle 氏は、「ロボット工学に基づく革新的なソリューションは、全く新しい産業やアプリケーションの分野への進出を模索している。テクノロジーと製品とアプリケーションを一体化させてソリューションを創り出すプラットフォームとして、automatica の重要性はますます高くなっている。4年間の空白期間を経て、予想より多くのビジネスリードを獲得することができた。来年の開催を今から楽しみにしている」と付け加えた。



対面でのプラットフォームの重要性を再確認

今回4年ぶりに対面での見本市が開催できたことは、産業にとっても大きな喜びであった。MVTec Software 社の Dr. Olaf Munkelt 氏は、「多くの人が対面での見本市を待ち望んでいたことは明らかだ。当然のことながら、バーチャルの世界はフェイス・トゥ・フェイスの世界の代わりにはならない」と述べた。また、NEURA Robotics 社 CEO の David Reger 氏も対面での見本市の重要性を強調し、「当社の認知ロボットは、見る、聞く、触れる、考えるなどの感覚を持っており、業界でもユニークなものだ。これらの機能は、実際に動作しているところを見ることでしか理解できない。

正に百聞は一見にしかずだ。今回の出展で、来場者から大きな反響いただき、大変満足している」と語った。

併催の会議プログラムも業界の重要性を強調

見本市での展示に加え、automatica 2022 では、基調講演、パネルディスカッション、プレゼンテーション、ライ

ブデモンストレーションなど、150 以上の幅広いプログラムが開催された。VDMA Robotics+Automation の Patric Schwarzkopf 氏は、「今年も automatica は見本市の役割を超えた大きな成果とリーダーシップを示し、プログラムの参加者からも満足の声が聞かれた。特に、参加者がこの場で直接見ることができることは素晴らしいことだ」と強調した。この素晴らしさは、未来のロボティクスを紹介した Future Robotics Hall 内に今回初めて設置された TestZone などでも実感できる。そして、AI とロボット工学における新しいハイテクプラットフォームで、i_Space、Robothon、munich_i ハイテクサミットを包含した munich_i は見逃せない場となった。



munich_i ハイテクサミット、対面では初開催

昨年 2021 年にデジタルで開催された munich_i ハイテクサミットが 6 月 22 日に初めて対面で開催された。会議ではロボット工学に加え、「未来を創造する知性」という中心的コンセプトの下で、AI も重要な議題として取り上げられた。バイエルン州首相のマルクス・ゼーダー氏は、munich_i ハイテクサミットの開会式で、「AI とロボット工学のビジネスプラットフォームとして、バイエルン州は未来のベンチマークを設定している。このテクノロジーは世界をより良い方向へ変えている。私たちはその可能性を信じている」と語った。

2023 年から、automatica は LASER World of PHOTONICS との併催が決定！

次回の automatica は来年も開催されることが決定した。その 2023 年からは LASER World of PHOTONICS との併催も決まり、出展者、来場者、メディア、協会団体などの交流により更なる相乗効果が期待される。



次回の automatica は 2023 年 6 月 27 日から 30 日まで開催され、その後は 2 年に 1 回のサイクルとなる。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.automatica-munich.com で入手できる。

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先：

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)